NIHON UNIVERSITY DISTANCE LEARNING DIVISION ALUMNI ASSOCIATION

日本大学 通信教育部校友会報

発行所：日本大学通信教育部校友会　〒102-8005　東京都千代田区九段南4-8-28　日本大学通信教育部内　TEL・FAX　03（3234）5858
発行責任者：白戸 忠志／編集責任者：師田 袈裟茂　通信教育部校友会ホームページ：http://www.nudld-koyukai.sakura.ne.jp/wp/

子の曰く、吾れ嘗て終日くらわず、終夜寝ねず以て思う。益なし。学ぶに如かざるなり。

私は前に一日じゅう食事もせず、一晩じゅう寝もしないで考えたことがあるが、むだであった。学ぶことには及ばないね。（学ぶ――書を読む、師に聞くこと）

『論語』

平成28年5月21日開催　第45回定期総会報告

会長挨拶

日本大学通信教育部校友会
会長　白戸忠志

本日は全国から校友の方、役員の方、大勢のご出席をいただき有難うございます。

平成28年度第45回通信教育部校友会定期総会開催に当たりご挨拶を申し上げます。

4月19日熊本地震が発生しました。いまだに余震が続いております。被災された皆さんにはお見舞いと1日も早い復興をお祈りいたします。

先ほど平成28年度第1回の三役会が開催され、この定期総会に提出の議案などの検討や各ブロック長より活動報告が行われました。各支部にとりましては会員の高齢化による役員候補者の不足・会費収入の減少など厳しい現状であるとの報告でした。

昭和47年5月に発足した私たちの校友会は今年で44年になり、今年3月の卒業生354名をお迎えし正会員数が34,077名となりました。先輩の築かれた通信教育部校友会をこれからも皆さんと共に発展させていかねばなりません。

校友会は親睦団体であります。大学・学生・校友の三者が共に向上する「三位一体の発展」をこれからも進めていきます。大学の部報1月号でご存知と思いますが学友会の組織変更があり、今まで学友会活動でありました「過去問集」の発行や「集夏祭」行事の一部を校友会として引継ぐことになりました。以前から校友会の行事に「ホームカミングデー」を採り入れようと他学部の実施状況などを調査してきましたが「集夏祭」と共同で実施する方向で考えております。内容は大学と校友会による実行委員会を中心に企画し通信教育部の特色あるプログラムになるよう校友の皆さんの参加・協力をお願いいたします。

通信教育部校友会では関根通信教育部長を名誉会長に大学・学生・校友の「三位一体の発展」をこれからも強力に進めてまいります。役員任期も1年を切りました。残された時間を校友会発展のために頑張っていこうではありませんか。

今年1月23日(土)この桜門会館4階桜ホールで開催されました新年会には大学より教授・事務職の先生方、各学部校友会を代表された要職の方々、学生24名の約90余名をお迎えし、盛大に、楽しく・格調のある新年会になりました。

今期の新年会は29年1月21日(土)を予定しておりますので皆さんぜひご参加下さい。

本日、表彰規定による対象者になられた方、永年校友会を支えていただき感謝申し上げます。これからも日本大学通信教育部校友会の役員としてご協力をお願い申し上げます。

通信教育部校友会では、日本大学の通信教育課程で学び卒業すれば、通信教育部校友会の正会員となります。（会則第6条の1）

また、専攻された学部の卒業生でもあります。各学部にはそれぞれ校友会があり、会員相互の親睦・向上と大学の振興に寄与することを目的に活動しています。また都道府県にもオール日大校友会の支部があります。

この学部別校友会と同等に通信教育部校友会が活動できるのも44年前に通信教育部校友会設立にご尽力いただき、今日までの発展にご協力いただいた諸先輩のお力です。

本部正会員制度ご参加の方で年会費納入振込み用紙の支援支部欄に「通信」とご記入をお願いしましたが、新卒者2年目の方にも通信支援を改めてお願いするようにいたします。

少子高齢化はこれからも進みます。望めば大学での勉学は誰でも受けられる時代になっております。通信教育は老若男女を問わず全国で学べる学習方法です。

校友会でも学生の増員にこれからも積極的に取組んでまいります。また、学生の支援にも大学に協力し、共に取組み、卒業生が増えれば校友会の活性化もつながります。

これからの通信教育部校友会の発展は支部の活性化が不可欠です。ブロック総会・支部総会の開催に補助をし、本部総会の出席には交通費、また会報発送にも補助費が予算に組まれております。支部発展に活用してください。支部の運営は厳しいと思いますが、支部長を支援し支部発展にご協力下さい。

日本大学校友会本部では日本大学創立130周年記念事業に取組んでおります。通信教育部校友会にも記念事業について要請があります。校友の皆様のご協力ご支援を合わせてお願いいたします。

先輩方の築かれました通信教育部校友会が、益々発展するように役員一同今年も頑張ってまいります。今までと同様ご理解とご協力をお願いし、第45回定期総会のご挨拶といたします。

部長ご挨拶

日本大学通信教育部
部長　関根二三夫

戦後間もない昭和23年8月6日、日本大学水泳部古橋廣之進選手が、神宮で開催された全日本水泳競技大会1,500メートル自由形で、18分37秒の世界最高記録を樹立しました。その同じ年の11月2日に、法学部・文学部・経済学部から成る本通信教育部が設置され、通信講座を開設しています。

戦後の混乱期の中で、様々な理由で高等教育を受ける機会が制約された人々に対して、高等教育を受ける機会を提供することができるようになりました。現在はペーパーレスが推奨される時代ですが、当時は、印刷製本用の用紙が不足する時代で、教本を準備するにも多くの苦労がありました。昭和25年3月に大学通信教育課程の認可を得て、昭和33年に文学部が文理学部へと名称変更があり、やがて昭和35年には、商学部商業学科の通信教育課程が設置され、現在の四学部から成る通信教育部の体制になりました。現在、正科生及び科目履修生合わせて約6,500名の学生が通信教育で学んでおります。年齢及び職業も様々で、まさに社会に開かれた大学の印象があります。通信教育部設置以来、68年近くの歳月が流れ、間もなく70周年を迎えることになります。卒業生もこの春の卒業を含めると34,077名となり、多くの校友の皆様が社会に育っていきました。通信教育部が一昨年の9月に水道橋から市ヶ谷に移転し、昨年及び今年にかけて入学者は増加傾向にあります。このことは、法人本部のご支援はもとより、校友の皆様のご理解があってのことと深く感謝申し上げる次第です。更に、通信教育部の教職員が一体となって、教育に対して質の向上に努め、学生が学びやすい環境を整備するよう、日々努力していることも影響しているものと思われます。

既にご存知の如く、日本大学は、吉田松陰先生門下の山田顕義先生（後の司法大臣）により明治22年10月4日に創立されました。師吉田松陰先生は、『士規七則』を著して当時の武士の心構えを示しました。立志をもって万事の源となし、友を選んで仁義の行いを扶け、読書をもって聖賢の教えを考えるということになるでしょう。「志を立てることは万事の源であるということ、誠に大切なことである。」ということを学生にはよく話します。志を高く立て、学道精進することは極めて重要なことです。通信教育での学びは日本だけの制度ではなく、世界的な広がりをもっています。一つの例ですが、1903年にニューヨークのグリニッジ・ヴィレッジで一人の男の子が生まれました。この子が7歳の時に母親が病気で亡くなり、父親も工事現場で大怪我をして、この子を養う事ができなくなりました。そこで、この子はモンタナ州グレートフォールズの親戚へ預けられました。ただ、この子は素行が悪く、喧嘩をしたり、家出をしたり、悩ましい子でありました。この子が15歳近くになった時、年を若干水増しして、海軍に入隊し、その後陸軍、そして海兵隊と三軍を経験しました。そして海兵隊を除隊してモンタナ州へ戻り、そこで鉱山労働者をしていました。やがて、高校の教員である女性のモーリーン・ヘイズ氏と出会います。2人は後に結婚するのですが、モーリーン氏から大学進学を勧められ、当時のモンタナ州立大学に入学許可を求めました。しかし、高校を卒業していなかったものですから、大学への入学は高校の教育課程を修了した後に入学を許可するというものでした。そこで、通信教育で猛勉強をして高校修了の資格を得て、大学への入学を果たしました。それから大学でも勉学に励み、やがて大学の先生になりました。そしてまた、モーリーン氏から、政治家の道を勧められ、民主党から立候補して下院議員に当選しました。それから後、下院議員を5期そして上院議員を4期勤めて、民主党の上院院内総務を歴任し、議員を引退しております。その後、民主党のカーター政権の時に、日本とアメリカの橋渡しとして、昭和52年（1977年）7月に日本にやって来ました。第22代アメリカ駐日大使マイク・マンスフィールド氏の若き日の生い立ちの話でした。マンスフィールド氏の人生にはモーリーン氏の支えが極めて大きな影響を与えておりますが、彼自身が志をしっかり持って、そのための努力を惜しまなかったことも事実です。

本通信教育部への学生の入学目的は様々です。例えば、卒業資格、教員免許状の取得、教養を深めるため、日本大学で学びたいから、職業上の知識の取得などがあります。一定の目的を持って学生が入学し、その目的を如何に成就させるか。通学課程と違い、このことは通信教育部に課せられた大きな使命です。昨今、給食費が払えない、入学式に着る服がないなど、子供たちをめぐる環境が

（2頁に続く）